

20005

ステント血栓症に Calcified Nodule の関連が考えられた一例

症例は50歳、男性。冠危険因子に糖尿病、慢性腎不全。右冠動脈の労作性狭心症に対してステント留置後、約1カ月後同部位が遅発性ステント血栓症となり治療した。さらに1カ月後に再度胸痛を訴え冠動脈造影施行すると、右冠動脈に血栓を疑う透亮像を認めるもCK上昇なく心不全の増悪のため心不全コントロールを優先し症状改善後、ステント治療とした。その9日後、再度ステント血栓症となり最終的にCABGとなった。本症例では、ステント血栓症時にIVUSで病変部観察するとCalcified Nodule likeの病変を確認でき、今回のステント血栓症の原因ではないかということが疑われた症例を経験したので報告する。